

## ① 文型がわかる→訳し方が決まる！

## ■文型の基本訳

① S V	【基本訳】「SはVする」 (例) Hisato lives in Nagoya now.	※移動や存在の意味が多い
② S V C	【基本訳】「SはCである／になる」 (例) Keiji became a soccer player.	※be と become が代表例
③ S V O	【基本訳】「SはOを[に]Vする」 (例) We study English.	※英語界の「最大派閥」
④ S V O <sub>1</sub> O <sub>2</sub>	【基本訳】「SはO <sub>1</sub> にO <sub>2</sub> を与える」 (例) I gave my wife a book.	※giveの意味が「共通因数」
⑤ S V O C	【基本訳①】「SはOをCにする」 【基本訳②】「SはOをCだと思ふ」 (例①) The news made us happy. (例②) You will find this movie interesting.	※make が代表例 ※think が代表例



上記5つのパターンをまとめて「5文型」と呼びます。「英文を読解する」とは、その英文がどの文型かを判断し、それぞれの【基本訳】に単語の意味をあてはめることです。

## ■文の要素

S 主 語 (Subject)	日本語の「何は、何が」にあたる部分。 <u>名詞が担当</u> 。 (例) <b>Gabriel</b> came to Nagoya this summer.
V 動 詞 (Verb)	日本語の「どうする、どうである」にあたる部分。 (例) Robert <b>teaches</b> physics at this college. Our cat <b>is</b> very cute.
O 目的語 (Object)	日本語の「何を、何に」にあたる部分。 <u>名詞が担当</u> 。 (例) We play <b>soccer</b> almost every day. Jurina reached <b>the theater</b> at five.
C 補 語 (Complement)	日本語の「どんなだ」にあたる部分。 <u>名詞か形容詞が担当</u> 。 (例) My father is <b>a vet</b> . (例) His words made us <b>angry</b> .













「文の要素」とは5文型の「主要登場人物」だと考えてください。ここではどの要素をどの品詞が担当できるかを覚えてください。

## ■品詞の基礎知識

名詞	…SかOかCになる。 (例) <u>Everyone</u> has a dream. (SとO) <u>Socrates</u> is a philosopher. (SとC) Taro lives in <u>Nagoya</u> . (前置詞のO)
形容詞	…名詞を修飾するかCになる。 (例) a <u>useful</u> book (名詞を修飾) This book is <u>useful</u> . (SVCのC) I find this book <u>useful</u> . (SVOCのC)
副詞	…名詞以外を修飾する。 (例) a <u>very</u> cute turtle (形容詞 cute を修飾) Jiro dances <u>happily</u> . (動詞 dances を修飾) <u>Luckily</u> , I had a dictionary. (文を修飾)
前置詞	…  +  で形容詞句か副詞句をつくる。 (例) a cat <u>in the box</u> (形容詞句) go <u>to Niigata</u> (副詞句)

英語には8つの品詞があるとされますが、ここではその中でも特に重要な4つを解説しています。これらを覚えることで文型を正確に判断できるようになります。どうか面倒くさがらずに覚えてください。

## ■文型の判断法

(1) S V	→ S V		「SはVする」
(2) S V 	→ S V C		「SはCである／になる」
(3) S V 	→ S V C	(S=  )	「SはCである／になる」
	S V O	(S≠  )	「SはOを[に]Vする」
(4) S V  	→ S V O C		「SはOをCにする」 「SはOをCだと思う」
(5) S V  <sub>1</sub>  <sub>2</sub>	→ S V O C	(  <sub>1</sub> =  <sub>2</sub> )	「SはOをCにする」 「SはOをCだと思う」
	S V O <sub>1</sub> O <sub>2</sub>	(  <sub>1</sub> ≠  <sub>2</sub> )	「SはO <sub>1</sub> にO <sub>2</sub> を与える」

文型とは一言で言ってしまうと、動詞を中心とした品詞の並べ方のことです(ですから、品詞をしっかり理解して覚えていないと文型はわかりません)。副詞は文の要素(S, V, O, C)にならない脇役なので、文型を判断する際は無視してください。

## ② 「かたまり」に強くなろう！

2語以上の単語が意味的にまとまっていて、その中にSVを含まないものを句、含むものを節といいます。ここでは句と節を区別せず、まとめて「かたまり」として扱います。

### ■名詞のかたまり

- (1) To study a foreign language is good for your brain.
- (2) The girls enjoyed dancing on the stage.
- (3) The problem is that we do not learn the lessons of history.
- (4) I want to start a blog, but I do not know what to write.
- (5) Where the scientist lives is a secret.
- (6) I wonder if Keiji will come to Yonezawa with us.
- (7) Whoever talks with Mr. Odagiri comes to like him.

(1)は不定詞句（名詞的用法）でSの位置に、(2)は動名詞句（Vingの名詞的用法）でOの位置に、(3)は接続詞thatが導く名詞節でCの位置に、(4)は疑問詞+to不定詞でOの位置に、(5)は間接疑問文でSの位置にあります。このように、名詞のかたまりはSかOかCの位置、つまり、主にVの前後に登場します。(6)のif節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではOの位置にあるので名詞節です。(7)のwhoever節も名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではSの位置にあるので名詞節です。

### ■形容詞のかたまり（後置修飾）

- (1) Minoru taught us the history of sugar.
- (2) Akane has a lot of birds to look after.
- (3) The cats playing in this room are all very cute.
- (4) Kazuma likes books written in English.
- (5) I have a friend who is a soccer player.
- (6) This is the bank at which my brother works.
- (7) I will never forget the day when I first met Taro.

(1)は前置詞句が、(2)は不定詞句（形容詞的用法）が、(3)は現在分詞句（Vingの形容詞的用法）が、(4)は過去分詞句（Vp.p.の形容詞的用法）が、(5)は関係代名詞節が、(6)は「前置詞+関係代名詞」で始まる関係詞節が、(7)は関係副詞節が、それぞれ名詞の直後にあります。このように、形容詞のかたまりは主に名詞の直後に登場します。日本語では「クマについての本」のように修飾語（下線部分）が名詞の前に来ますが、英語では a book about bears のように名詞の後ろに来ます。英語は「後置修飾」の言語だと覚えておいてください。

## ■副詞のかたまり

- (1) Fossil fuels are used in most countries.
- (2) I had few friends when I was in college.
- (3) I want to study in the U.S. to improve my English.
- (4) Seeing me, the baby began to cry.
- (5) Seen from a space ship, the earth looks blue.
- (6) If it rains heavily tomorrow, the game will be postponed.
- (7) Whatever Kenji may say, we shouldn't believe him.

(1)は前置詞句が文末（SV ~の後）に、(2)は接続詞が導く副詞節が文末（SV ~の後）に、(3)は不定詞句（副詞的用法）が文末に、(4)は分詞構文（Ving の副詞的用法）が文頭に、(5)は分詞構文（Vp.p. の副詞的用法）が文頭にきています。このように、副詞のかたまりは主に文頭か文末に登場します。(6)の if 節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。(7)の whatever 節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。

「楽々受験英語」 <http://kn-english.com/>



### 『英文法入門 10 題ドリル』

(センター筆記 120 点未満の人向き)

### 『英文法基礎 10 題ドリル』

(同 120 点～160 点の人向き)

